

奥能登国際芸術祭を盛り上げましょう

東京珠洲会 会長 笠原英二

東京奥能登応援団の皆様には、日頃から東京珠洲会にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。当会は、昭和38年に結成され54年を迎えようとしていますが、奥能登出身者の首都圏の親睦団体として会員相互の絆を強める一方、ふるさとの一層の繁栄を念じながら地元との交流を深めてまいりました。

さて、今秋の9月3日(日)から10月22日(日)まで珠洲市を舞台に「奥能登国際芸術祭2017」が開催されることになりました。去る2月19日企画発表会が行われ、芸術祭の概要が明らかになりました。コンセプトは「日本の祭りと食文化の源流を探索」とし、「国内外のアーティストと奥能登珠洲に眠るポテンシャルを掘り起こし、日本の“最涯”から“最先端”の文化を創造する試み」とその意義を高らかに謳っています。

故郷を離れて久しい出身者には懐かしい“キリコ祭り・ヨパレごっつお”の文化と明媚な里山里海の風景がこの芸術祭を通じて、全国さらに世界に発信されていくことが誇らしく思うところであります。

総合ディレクター・北川フラム氏によって手掛けられるこの芸術祭が、瀬戸内国際芸術祭、大地の芸術祭越後妻有アートエンナーレと並ぶ国際芸術祭として成功することを衷心から願うばかりです。

奥能登出身者の私ども、家族揃っての里帰り、あるいは友人知人、職場の同僚などに対して口コミによる誘客PRに声を大にして、奥能登国際芸術祭を大いに盛り上げていきたいものです。



寄附・協賛金・サポーター募集

お問合せ先 奥能登国際芸術祭実行委員会事務局
〒927-1214 石川県珠洲市飯田町13-120-1
TEL0768-82-7720 FAX0768-82-7727
E-mail info@oku-noto.jp



直前PRイベントIN渋谷ヒカリエ

- 7月4日(火)～17日(月) 渋谷ヒカリエ8階ギャラリー[8/(ハチ)]
- 9日、16日の日曜日 北川フラム総合ディレクターや参加アーティストによるトークショーを予定

東京珠洲会 平成29年総会予定
11月17日(金)12:00～ 浅草ビューホテル

こらむ アイデンティティ 34

「ふるさと」とは…… 〈その一〉

——名人の親父と原風景と住民税——

「ふるさと」という語感は何とも言えない特有の郷愁を誘う。広辞苑を引くと、2つの語釈があつて、一つは「古里」の漢字を当て、昔、都などのあつた古跡の意味付けがされている。二つ目には生まれた土地、住んでなじみ深い所として「故郷」の漢字が表記されている。ここで述べたいのは、言うまでもなく後者の「故郷」である。

「ふるさと(故郷)」は、誰にとっても計り知れないそれぞれの深い感慨がある。我等にとつては、奥能登の山川であり田畑と街並みや海と空の自然風土である。そして、いにしえから連綿とつながり織りなしてきた奥能登固有の暮らしや交わりの悲喜こそ、この絆である。

私は子供の頃、将棋が好きで当時無敵の大山康晴十五世名人の書かれた『棋風堂』を後年愛読した。氏は一時名人の座を失い、「大山時代は去る」とマスコミに書かれた。著書によれば、岡山県倉敷の両親が心配しているのではないかと帰省すると、父親は「また、やり直せばええが」と。そして、名人は「田園風景が残る故郷の町の姿は、黙って傷ついた私の心を慰めてくれるようであつた。」と、心眼を書き添えている。

名人は東京に住まいを構えていながら、終生住民票は故郷倉敷に置いていた。その根拠は、郷里に住民税を納めたかったのである。名人のふるさとに対する意識だったのだといえようか。

考えてみると、「ふるさと納税」の制度を導く先駆けとなりヒントになったのだともいえる。

(押上武文(府中市宝立町出身))

書家 船本芳雲さん

故郷への郷愁を書す(その1)

かもめ
鷗はわたしです



(240×900センチ)

鷗 ひとり

訛を置きわすれ

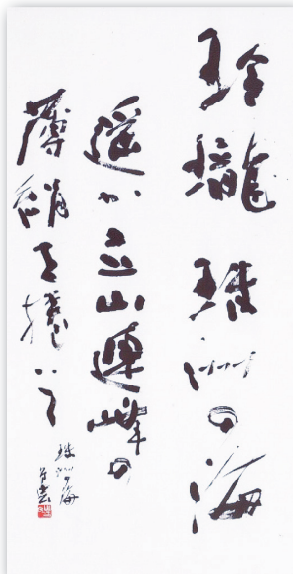
雑踏の中 方向のとれぬ

鷗ひとり

足踏み するわたし がいました

鷗は わたしです

珠洲の海



玲瓏珠洲の海
遙か立山連峰の
薄絹を捲いて

(136×70センチ)



船本芳雲(洋治)先生略歴
昭和17年 樺太生まれ、
珠洲市宝立町出身
昭和36年 飯田高校卒業(13期生)
※次号でプロフィールなどを掲載いたします。

ご挨拶

私は四十歳で日本国有鉄道(現JR)東京鉄道管理局を退職し書家の道へ入りました。

母さん子の葬儀に帰省した私に近所のおばさんが「洋治さん、あなたの母さんがね! ダラボッチャなあ、勤めとりや恩給がつくのにと嘆いておられたがけよ!」と。身をつくめて立ちつくしたのが昨日のようです。また、それを救ってくれたのが「洋治の書の作品が市長室にかかるとして『緑岡崎は吹雪いて海に沿うた道をバスが行く』と暗唱して話していた晩年の父喜三郎でした。ああ、いい故郷に育てられたなあ。いい親に育てられたなあと実感した次第。

さて、書の世界は〈漢字・かな・近代詩文書(漢字とかなの現代文を書く)・大字書(大きな紙の中に二字以内の字を書く)・篆刻(主に

石に刻す)・刻字(板や竹などに自分の書を刻す)・前衛書の七部門があります。私は近代詩文書が主な活動部門ということになりますが、この部門は詩人、歌人、俳人等文芸人の文章を借りて書作することになります。私は、特に指定のない限り自作詩を発表しています。

2005年には〈奥能登への郷愁を書く〉と題して東京銀座のセントラル美術館で十四メートルの「炉端がたり」をはじめ十数点の個展を、2014年には横浜そごう美術館で十メートル級の作品をはじめ二百数十メートルの壁面を埋める個展を致しましたが、それも「沁みいる故郷 船本芳雲書展」でした。〈父の颯爽(囲炉裏の向こう側)〉〈父母の温もり〉〈漁火遠く〉〈ふるさといつぱい〉〈かあさんからてがみがきたよ〉〈珠洲の海〉〈眼だけ故郷〉の大作群でしたが、私の書は、ふるさとから離れないのです。——玲瓏珠洲の海 遙か立山連峰の薄絹を捲いて——。また——海と山を分けて バスが行く 奥能登の街道は——です。以後三回に分けて作品を発表させていただきます。

珠洲市観光大使意見交換会

2月26日珠洲市役所において、泉谷満寿裕珠洲市長と招請された観光大使の笠原英二(東京珠洲会会長)、中島盛夫(銭湯絵師)、珠洲春希(元宝塚)の各氏及び当応援団代表で意見交換会が行われ、観光誘客の方策、空き家対策、IターンUターン勧奨などの課題などについて意見を交換した。



中島師匠の現代の名工受賞祝い

昨年の11月21日、珠洲市観光大使の銭湯絵師・中島盛夫さんが「卓越した技能者(通称「現代の名工」)」に選ばれ、厚生労働大臣から表彰を受けた。1月25日荒川区内の料理店・華花において、泉谷満寿裕市長や寺井英樹珠洲市議、田崎正彦氏ら見附島観光協会20人が、中島さんを囲み名工の受賞を祝った。

なお、見附島観光協会の一行は、中島さんが昨年中に見附島の背景画を制作した銭湯を巡り、作品を鑑賞した。

昨年中島師匠制作による首都圏の見附島背景画

【東京都】世田谷区奥沢 松の湯(男湯) 葛飾区小菅 久の湯(男湯)
【横浜市】磯子区中原 杉田湯(女湯) 港北区大曽根 太平館(女湯)
【その他】川崎市幸区幸町 富士見湯(男湯) 市川市南八幡 宝湯(男湯)



泉谷市長から花束の贈呈



横浜で銭湯絵鑑賞

須々神社に笛演奏奉納

2月26日、すずまるかじりに訪れた邦楽家・石森裕也さん(27歳)は、飯田町で“ごっつおう”を楽しんだ後、三崎町の須々神社に参殿し、笛演奏と舞を奉納し、芸能技術の上達を祈願した。猿女貞信宮司の祝詞奏上に続き、竹澤清孝氏の司会で奉納が行われ、氏子ら約30人が見守る中「招き」、「獅子」、「春」の3管を演奏、舞「壽三番叟」を披露、厳かな演奏と華麗な舞いに参列者から感嘆の声が上がった。同神社でのプロ演奏家の演奏奉納は初めてのことである。



石森さんは、両親の影響で物心つく頃から埼玉県飯能市で祭り囃子に参加、東京芸術大学音楽部邦楽科を卒業後、NHK黒田官兵衛に楽師として出演するなど新進の邦楽の演奏家としてのスタートを飾った。

奉納演奏の後、石森さんは宝物殿で義経の「蟬折れの笛」と対面し、「是非復元して持ち笛にして演奏活動を行い、須々神社の義経伝説を広めたい」と抱負を語った。また、寺家キリコ保管所では、東京で能登の祭りをやろう会(会長・八木淳成)の会員としてキリコには親しみを持っているものの、日本一の寺家キリコの大きさと荘重さに驚嘆し、「秋の祭りには是非参加したい」と再訪問の意向を述べた。

今秋 町田市でキリコ祭り

キリコが東京に搬入されて8年ほどになる。都内のイベントに度々参加し“奥能登の広告塔”として日本遺産のキリコ祭りの知名度を高めてきた。今年から町田市小山のアレサ商店会のイベントで担ぎ出しをすることになった。東京で能登の祭りをやろう会八木淳成会長は、「町田の祭りとしてキリコ祭りを定着させたい」と張り切っている。

10月13日(金)18:00~20:00、14日(土)9:30~17:00「アレサふれあい祭り」

首都圏のふるさと行事

4月13日~19日	北陸新幹線グルメ紀行(仮)	そごう千葉店
4月16日(日)	JTB・日本海周遊クルーズ	船橋市ららぽーとTOKYOBAY
4月26日~5月2日	味覚の加賀・能登・金沢フェア	高島屋港南台店
5月10日~16日	金沢フェア	北千住マルイ
5月11日~17日	加賀・能登・金沢 物産展	京急百貨店
5月20日(土)	金沢港クルーズセミナー	東京国際フォーラム



【連絡先】
〒927-1443
珠洲市東山中町ホの部2
大野製炭工場
0768-86-2010
Email notohahaso@gmail.com

【主な活動】平成16年…クヌギ植林を開始。平成20年…植林イベント開始、同21年から「能登半島おらっちゃんの里山里海」と共催して植林イベントを開催。昨年まで8回の植林6000本達成。

このほどクラウドファンディングFANVO(ファボ)による資金調達を始めました。皆さんの応援をお待ちしています。よろしくお願いします。

◆メッセージ……
一番上質な炭が出来るクヌギの生産による炭焼きを生業にするには、8000本の原木が必要で、育成し伐採するまで8年かかります。一度植林したクヌギは、伐採しても切り株から新芽が出ますので、また8年育成するという循環のサイクルが出来上がります。

頑張る奥能登人

能登でお茶炭の
産地化を目指す
大野製炭工場 代表
大野長一郎さん
(珠洲市東山中町)

【経歴】

昭和51年 珠洲市東山中町生まれ
平成 7年 珠洲実業高校卒 キョーワ(株)入社
平成11年 キョーワ(株)退社 家業である大野製炭工場に勤める
平成15年 父の他界を機に大野製炭工場の代表となる

横浜石川県人会「鶴見区民フェスティバル」に能登物産展



5月20日(土)9:30~16:00
横浜市鶴見区 県立三ツ池公園
JR鶴見駅、JR新横浜からバス
お問合せ先 本田代表世話人
090-3127-5345



文京石川県人会

「氷室の日・まんじゅうを楽しむ会」
講演会・懇親会 7月1日(土)

富士山開き／午前：文京区本郷 富士浅間神社
講演会／午後：湯島地域活動センター
懇親会／夕：加賀屋本郷三丁目店
お問合せ先／大湯代表世話人
090-4703-6124



東京大学総合研究博物館・特別展示

赤門——溶姫御殿から東京大学へ

前田家の本郷邸開設400年と東大創立140年を記念して行われている展覧会で、陶磁器の什器や古銭、瓦などの東大敷地からの出土品に加えて、金沢からの図面なども展示され、前田育徳会も溶姫の描かれた絵画や調度品類を出品している。

会期:2017年3月18日[土]~5月28日[日] 無料

開館時間:10:00~17:00(入館は16:30まで)

総合研究博物館(東京大学本郷キャンパス内)



4月15日(土)13:00~16:30 東京大学山上会館

前田利祐18代ご当主ほか講演会『赤門・溶姫を考える』



事務局から

平成27年毎日芸術賞を受賞された書家・船本芳雲氏の作品を連載で紹介いたします。氏の作品は“書道界のシンガーソングライター”と賛辞される近代詩文書です。小紙の紙面では大作の迫力を十分に伝えることは適いませんが、珠洲の海こそ感性の原点と評される作品群は、味わい深く強く胸に迫り郷愁を誘います。

〔東京奥能登応援団〕 代表／光眞 章